

組織培養によるフキの多収系統の選抜

【背景・目的・成果】

淡路島のフキは昭和28年頃から栽培が始まった歴史のある産地(2.1ha)ですが、ウイルスの汚染により生産力が低下してきました。そこで、フキの茎頂培養によりウイルスフリー化を図るとともに、優良系統の選抜を行いました。

まず、収量や葉柄長の向上を目標に有望な4系統を選抜しました。それらを増殖した後、生産者団体(JA淡路日の出ふき部会)に一般栽培をしてもらい、増殖性や萌芽率、日持ち性などを調査し、最終的に1系統を選抜しました。

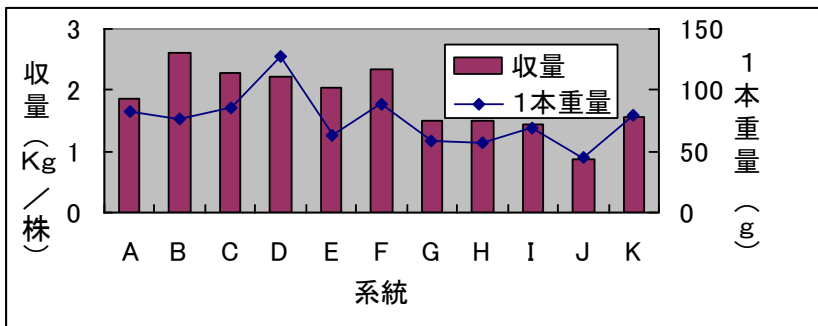


茎頂や頭花を培養し、さらに増殖しました



現地の隔離施設(共同育苗施設)に植え付けました

まず、主に収量性のすぐれた系統(B、C、D、F)を選抜しました



一般栽培を行い、最終的に収量性と増殖性に優れた1系統(F)を選抜しました



【技術の活用】

選抜系統は、毎年増殖するだけでなく、母株がウイルス病に再感染することのないように、維持管理に注意する必要があります。

現在、生産者団体が現地に隔離増殖施設を設け、新系統への更新を進めています。